

令和6年度 第2回 松山市地域公共交通会議
議事概要

□ 日時・場所

令和6年12月20日（金）14:00～16:00

KH三番町プレイス 3階 第1会議室

□ 委員

松山市都市整備部 部長	石井 朋紀
松山市都市整備部 都市・交通計画課 担当課長	柚山 知範
松山市福祉推進部 介護保険課 課長	吉野 久行
松山市福祉推進部 障がい福祉課 課長	伊藤 栄治
松山市健康医療部 保健予防課 課長	西田 光晴
伊予鉄バス株式会社 部長	中川 智之
松山市タクシー協会 会長	友石 晃由
一般社団法人愛媛県バス協会 専務理事	松本 真一
一般社団法人愛媛県ハイヤー・タクシー協会 会長	渡部 光男(欠席)
松山市高齢クラブ連合会 芸能・文化部長	歌原 與頼
松山東雲短期大学 教授	桐木 陽子
松山市身体障害者協会 副会長	松田 豊秋
特定非営利活動法人 自立生活センター松山 理事長	加藤 陽子(欠席)
国土交通省 四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官	増田 輝彦(代理:徳永 暁子)
全国自動車交通労働組合連合会 愛媛地方本部 執行委員長	宮岡 主(欠席)
伊予鉄労働組合 書記長	稲石 健(代理:埴田 良太郎)
愛媛大学 工学部 准教授	倉内 慎也
愛媛県警察本部 交通規制課 課長	宇都宮 理(欠席)
愛媛県中予地方局 地域政策課 課長	小笠原 貴史

(敬称略 順不同)

※委員総数19名中15名の出席により過半数を超えているため、本協議会は有効に成立する。

□ 議案第2号の説明者

チョイソコひさえだ	久枝地区まちづくり協議会2名、賛助会員企業1名、運行会社1名
チョイソコおのくめ	NPO 法人まるっとおのくめ2名、賛助会員企業1名、運行会社1名
チョイソコいしい	NPO 法人石井わくわく物語1名、賛助会員企業1名、運行会社2名

□ 議事

【第1号 松山市予約制乗合タクシーについて】

事務局

--- 経緯・概要説明 ---

(質問・意見等なし)

委員長(愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也)

- ・他にご意見も無いため、議決に入りたい。事務局から説明があったとおり、松山市予約制乗合タクシーの2路線について、変更内容を承認してよろしいか。

--- 委員一同 異議なし ---

- ・異議なしと認める。したがって、本議案は承認された。
事務局は、令和7年4月1日からの変更に向けた速やかな手続きをお願いします。

【第2号 「チョイソコひさえだ・おのくめ・いしい」が道路運送法第4条の乗合許可を取得することについて】

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・まず、この貴重な会議の場で、私達チョイソコについてお話をさせていただく時間をくださったことに心から感謝する。これから、私達の熱い思いをのせながら、この4年間のチョイソコの活動の歩みと、これからのことをお伝えさせていただく。
- ・まず初めに、チョイソコがなぜ地域で必要だと思い、そしていろんな困難を経て実装に至ったかをお伝えさせていただきたい。今日のメインスピーカーは私が仰せつかっているため、ここでは、チョイソコおのくめを中心にお伝えするが、問題意識については、3団体ともに、同じように考えている。
- ・私は普段、包括支援センターで、主任介護支援専門員と社会福祉士という専門職で働いており、高齢者からの総合相談業務に18年間務めている。そうした業務の中で、移動やお出かけの課題を解決できないままに閉じこもりがちになり、人との交流が途絶え、結果的に身体的にも精神的にも、そして社会的にも、フレイルな状態になってしまい、仕方なく介護保険を申請するという高齢者の方々をたくさん見てきた。
- ・しかしながら、自分は専門職として、そこに関して何の手立てを打つこともできないというもどかしさをずっと感じてきた。また、高齢者の危険運転や、免許返納の問題も、待ったなしの課題だということも実感をしてきた。
- ・そんなときに出会ったのがこのチョイソコという仕組みで、このチョイソコの仕組みが町にあれば、高齢者の生活は変わるんじゃないか、まさにフレイルの予防になるんじゃないかなということを感じた。そこで、まず小野地区で地域の住民の方々の外出状況を把握するために、大阪工業大学の西堀准教授らの協力のもと、その外出状況を調査し、見える化をすることから始めた。
- ・その調査の結果については、資料4の3ページをご覧ください。まず、それぞれのお出かけ内容に対して、行くことがあるかどうか、また、そのお出かけにどのような交通手段を利用して移動しているかというのを確認した。病院の診察や、買い物などの生活する上で必要不可欠なお出かけの外出率は高い一方で、ランチや、特別な買い物、友人に会う、温泉に行くような、いわゆる愉しみの活動に関する外出率は3割から5割であった。
- ・また、このお出かけの頻度に関する充足度についての質問では、日常的な買い物や愉しみの活動に対して、「もっと行きたい」「実は行きたい」と回答している人の割合が高くなっている。これは、お出かけをするという意欲はあるが、交通手段がないために、行きたいときに行きたいところへ行けない、行けていないという状態であることが考えられる。

- ・以上のように、この調査で、お出かけできるかできないか、お出かけしやすいかしくにくいかという問題は、生活への意欲や、暮らしの豊かさに影響しているということが分かった。
- ・そこで、既に先行して実装していたチョイソコひさえだの活動を参考にしながら、令和4年5月に小野、久米地区でもチョイソコの実装を実現させた。
- ・今では、久枝地区、小野久米地区、そして石井地区にまでチョイソコは広がった。
- ・チョイソコひさえだは、久枝地区まちづくり協議会が運営主体、チョイソコおのくめとチョイソコいしいは、NPO 法人が運営主体であるが、この三つの運営主体には共通するものがある。それは、住民と地域の企業が協働をして健康増進と孤立のないまちづくりを目指していること、また、まちづくりを他人任せにしていないこと、そして、困っている人を助けられるかもしれない手段があるならば、それを実行しないではいけないという少々前のめりな熱い思い、これら三つが、この運営主体に共通する思いであり、理念である。
- ・次に、同じく資料4の5ページをご覧ください。チョイソコおのくめの運行形態について説明する。
- ・利用者は、小野地区、久米地区にお住まいで、原則65歳以上の方としているが、特別な事情を抱える方の場合、運営主体の判断で利用可能としている。
- ・停留所については、状況により随時見直しを行うが、区域以外に停留所を設置することはない。
- ・対象区域については、6ページにある地図のとおり、小野、久米地区+周囲500mを目安としている。
- ・運行日や運行時間については資料に記載のとおりである。
- ・利用料金は、1人1ヵ月3500円の定額乗り放題制、会員と一緒に利用する付き添い会員は1人につき1ヵ月1500円の定額乗り放題制としている。
- ・予約については電話のみとしている。
- ・運行車両は、二神タクシー有限会社と四国交通株式会社が所有する7人乗りのワンボックスカーである。
- ・運行状況は、資料4の7ページに記載しているグラフを参考にさせていただきたい。
- ・次に、資料4の8ページをご覧ください。チョイソコ導入後、地域住民の心身にどのような変化があったのかを調査した結果をお伝えする。
- ・最初に分かったのが、お出かけニーズが顕在化されたことである。
- ・チョイソコ利用前は、あるお出かけ内容に対して、「行かない」と答えていたが、利用後は「行く」に回答されたほか、外出頻度は「今のままでいい」と答えていた方が、チョイソコ利用後は、お出かけ回数を増やしたいと回答するなど、外出意欲が高まっているということが分かり、好きな時間に利用できる移動手段があることで、お出かけしたいというニーズが顕在化されたと考えている。

- ・次に、資料4の12ページをご覧ください。
- ・フレイルには、身体フレイル、心フレイル、社会的フレイルと、いろいろあるが、その中でもチョイソコは、社会的フレイルに大きく影響しているなどというような出来事があった。
- ・チョイソコおのくめでは、単なる外出手段の提供だけでなく、定期的にイベントを開催する「外出機会の創出」にも力を入れている。チョイソコを始めた頃には、ちょっとした顔見知りや知り合いができ、地域の住民同士の繋がりが広がるということは当然期待していたが、実際には、想定していた以上の効果があった。
- ・資料4の13ページをご覧ください。昨年、チョイソコおのくめが主催したお茶会で集まった数名の利用者が、自分たちで計画を立て、車を手配し、日帰りしなみ旅行に行かれた。参加者の最高齢は90代の方で、チョイソコをきっかけに、このような機会が生まれなければ、1人では旅行に行くことも難しかったであろうと考えている。
- ・次に、チョイソコおのくめの協力事業者である医療法人聖光会の宗岡さんから、地域貢献の一つとして、参画を始めたチョイソコを通して、実感している効果や、やりがいをお伝えする。

チョイソコおのくめ 賛助会員企業

- ・当法人では、地域住民が認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしてほしいということで、誰でも参加できる「たかのこカフェ」を開いているが、参加者から、「いつも娘に頼まなくちゃいけない」、「どうやって行ったらいいかわからない」、「タクシーでみんなで来た」といった声を聞いていたため、チョイソコを利用して来てもらうよう、チョイソコおのくめとコラボ企画を始めた。
- ・そうしたところ、11月にカフェを開いたときには、チョイソコで来た方が3名、体調のことがあって乗れなかったが、チョイソコで来たかったという方がいるなど、チョイソコを通じて、地域の方の素敵な顔を見ることがすごく嬉しく思っており、来年1月も引き続き行う予定にしている。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・チョイソコひさえだでも、外出の機会を作るという点で、フレイル予防に取り組んでいることがありますので、説明する。

チョイソコひさえだ 久枝地区まちづくり協議会

- ・資料3の7、8、9ページをご覧ください。
- ・まず身体フレイルについては、チョイソコを利用することによって、体が元気になったと回答した利用者がある。これは、外出による効果であると考えている。

- ・次に、心のフレイルについては、10 ページの図 17 によると、心が元気になったという回答が多くあり、心も明るくなるという状況がみられる。
- ・3 つ目に、11 ページに記載の社会的フレイルについては、高齢者に多くみられる 1 人住まいの方が、チョイソコで人と会い、交流が新しく生まれたりしている。具体的には、車内でよく顔を合わせる利用者同士が意気投合し、2 人で一緒に体操教室に通うようになったほか、いつも通院時間が同じで、相乗りになる利用者同士でお買い物に出かけるようになる、利用者が誘い合ってお茶会に行くなど、交流の幅が広がっている。さらに、資料に写真を掲載しているが、今年の 4 月に利用者をご飯会を発案し、公民館や高齢クラブの方にもご協力いただき、賑やかに開催した。
- ・人生 100 年時代で、伸ばそう健康寿命というのが大事なテーマになっており、チョイソコを使って、高齢者が元気に自身の地域で過ごせるように引き続き取り組んでいきたい。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・さらに、石井地区では、高齢者に限らず、全世代を視野に入れた外出機会の創出にも力を入れている。

チョイソコいしい NPO 法人石井わくわく物語

- ・チョイソコいしいでは、高齢者をはじめ、子育て世代や、小中学生の子どもたちも移動に困っているのではないかという観点から、町内会を巻き込み、年齢制限を設けることなく、誰でも使える移動手段として、地域の中で同じ思いを持つ者が集まって運行を始めた。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・チョイソコいしいで、賛助会員企業として参加している株式会社エルパティオの川崎さんから、参画してからの実感をお伝えする。

チョイソコいしい 賛助会員企業

- ・私どもは、保育園の経営と子育て中のお母さんたちが集まるママハウスという広場的なものを経営しているが、そこで、高齢者の方にチョイソコで来ていただき、子どもたち、ママたちと触れ合える機会を作らせていただいたところ、とても喜ばれ、お母さんたちも子供の送り迎えや、自分たちだけで子育てをするのがなかなか難しいという方がたくさんいる中で、チョイソコの可能性は、全世代を繋ぐ大きな意味になるのではないかとやりがいを感じている。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・チョイソコで移動をお手伝いしているというところが大きなところではあるが、それだけではなく、まちづくり、人と人との繋がりみたいなのが私達の一番やりたいこと、最終的な目標、目的となっている。
- ・介護予防、健康増進などに直接的に関わる企業や、病院が多く参画していただいているが、直接的に関与しない企業も、町が元気になるということで参画していただいている企業がある。
- ・上田消防建設株式会社の代表の正岡さんから、その思いをお伝えいただく。

チョイソコひさえだ 賛助会員企業

- ・具体的にチョイソコで当社が何か利益を得られるかというところ、病院でもスーパーでもない中にご協力させていただいているが、実はすごく未来を感じている。
- ・若い社員のほとんどは共働きとなっている。例えばその中に、車の免許を返納したお母様方がいたとして、病院へ行く場合には、どちらかが行かないといけませんが、経営者としては、その度に穴を開けられるのは、人員の調整面で非常に大変になる。
- ・少子高齢化で働き手が減っている中、少しでも自分自身が健康を考え、かゆいところに手が届くようなサービスが以前からあればということも私も考えていた。
- ・たまたまそこにお話をいただき、これは良いということで、私の周りの企業にもお声掛けしている。お声がけした人には皆さん賛同し協力していただいている。
- ・いろんな企業に関係してくる内容ではないかと思う。ぜひとも、皆さんでご協力をいただいたら、非常に前向きな未来の明るいものになるのではないかと思う。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・数々の取組、活動が大きくフレイル予防に寄与し、さらには、安心安全なまちづくり、地域全体の活性化に非常に良い影響を、チョイソコが与えているというところは伝わったと思う。
- ・元気ハツラツではないが、要介護状態でもないというまさにフレイルの状態にある人々への移動の手段の確保は、おそらく誰もが気づいていた問題ではないかと思うが、この課題を解決するのが、そう簡単でもないということも事実であり、なかなか手をつけにくかった。そして手をつけたとしてもうまくいかなかったという経過があるのではないかと思う。
- ・そうした中、松山市内でチョイソコが市民主導で動き出し、こうして広がってきていることを受け、私達はなかなか手をつけにくそうな困りごとでも、その気になれば少しずつ解決できることを実感し続けている。
- ・私達は、そこに関わっていることを嬉しく、とても誇りに思っており、チョイソコの取組は非常に成功していると感じている。

- ・それはなぜかという、課題に対して真正面から向き合って、自分の目の前の大切な人の「困った」を解決したいという思いを、他人ごとや他人まかせにせず、自分事としてたくさんの仲間と共有して取り組んでいるからだと思っている。
- ・そうやって活動していくノウハウも、積み重なってきていると感じている。
- ・そのため、本日はチョイソコの乗合化について、ぜひ委員の皆さんにご検討いただきたいと思う。できれば、松山市全ての地域で、お出かけのニーズ調査みたいなものができればいいのではないかと考えている。そのような積み重ねにより、松山市の公共交通網がより最適で効率良く、誰もが一生涯安心してお出かけを楽しめる、いわゆる全体最適化の視点を持ったものになっていくのではないかと感じている。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・次に、チョイソコひさえだと、チョイソコいしいで、運行エリアを拡大したいという議案について、ご説明いただきたい。

チョイソコひさえだ 久枝地区まちづくり協議会

- ・資料3の5ページをご覧ください。
- ・上が現行の運行区域で、下が理想の運行区域である。
- ・現在は、バス路線への影響を考慮し、赤丸で囲んでいる衣山駅周辺は運行していないが、会員からは、市内中心部や、遠くへ行くために、衣山駅から電車に乗り換えたいという要望があるため、衣山駅まで運行範囲を広げることを希望している。

チョイソコいしい NPO 法人石井わくわく物語

- ・資料5の7ページをご覧ください。
- ・現在の運行範囲が図8で、石井地区を含め+外周500mとしており、立花駅周辺は運行していない。
- ・石井地区で電車を利用される方は、福音寺駅を利用している。
- ・チョイソコに乗るようになってから電車を利用することが増えた、もしくは新たに電車を利用できるようになったという方がたくさんいる。
- ・一方で、石井地区西側にお住まいの方としては、福音寺駅まで行くのは、距離があり、時間もかかり、チョイソコの相乗り率も低下してしまうという問題があり、できれば立花駅を利用したいという声があるため、図9のように立花駅を含む運行範囲を希望している。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・議論のポイントとしては二つ。
- ・まず、道路運送法第4条の乗用許可で運行しているチョイソコひさえだ、おのく

め、いしいが、乗合許可に変更するという点と、チョイソコひさえだ、いしいの運行エリアを拡大したいという点について委員の皆さまにご意見をいただきたい。

- ・その前に、愛媛運輸支局から、道路運送法第4条の乗用から乗合に変更する動き、メリット、あるいは懸念される事項などあれば、ご説明いただきたい。

国土交通省 四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官

増田 輝彦（代理：徳永 暁子）

- ・まず、道路運送法上の一般乗用旅客自動車運送事業と一般乗合旅客自動車運送事業が、どういった制度になるのかを説明する。
- ・一般乗用旅客自動車運送事業は、いわゆるタクシー事業で、乗車定員10人以下の旅客を運送するもので、一般乗合旅客自動車運送事業は、いわゆるバス事業が該当する。
- ・今回、チョイソコが取得を希望しているのは、定められた区域の中で旅客を運送する区域運行の乗合許可である
- ・乗合の許可を取得する際には、地域公共交通会議で方針を決定の上、運営していく方法がほとんどである。乗合の区域運行の許可にあたっては、資金計画を立てるほか、予約方法を決定するなどが必要であり、四国運輸局で書類審査を行う。
- ・標準処理期間が定められているため、手続きは早めに進めていただきたい。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・それでは、質疑に入る。ご意見、ご質問等あればお願いします。

国土交通省 四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官

増田 輝彦（代理：徳永 暁子）

- ・チョイソコおのくめの運行区域で、東温市が一部、運行範囲に入っているが、東温市のフジグラン重信と松山市との移動が多いのか、東温市在住の方からフジグラン重信に行くような東温市内での移動が多いのか伺いたい。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・小野久米地区＋周囲500mを運行区域として設定しているため、東温市のフジグラン重信が含まれ、東温市野田、東温市北野田が入っているが、チョイソコおのくめを利用できる人は、小野久米地区に住んでいる人であるため、東温市の方が松山市に移動するといったことはなく、久米地区や小野地区の方がフジグラン重信に出かけることは多くある。
- ・逆に、フジグラン重信に近い小野地区の方が、久米のサニーマートに移動している事例も多くある。

松山東雲短期大学 教授 桐木 陽子

- ・愛媛運輸支局の方のご説明では、まずは事業者が新たな認可を取得することが必要であるということだが、この公共交通会議では将来的にそれを取得する努力をしていただくことを見越して許可をするのか。その意志があるかどうかを確認することは必要ではないのか。
- ・また、愛媛運輸支局の方は、定められた区域運行という言葉が使われたが、その場合、500mを目途とするなど、曖昧な区域設定でも可能なのか、愛媛運輸支局の方にお尋ねしたい。

国土交通省 四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官

増田 輝彦（代理：徳永 暁子）

- ・区域の定め方としては、チョイソコで運行する具体的な町名を示していただき、最終的にはこの地域公共交通会議で検討し、合意された内容で、運輸局に許可申請を提出していただくという流れとなる。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・この会議で合意ができれば、それを目指して申請に入っていただくというようなこととなります。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・なぜ乗合の許可を取得したいのか聞きたい。

チョイソコおのくめ 運行会社

- ・現行は、タクシーの相乗りという仕組みで運行しているが、そもそも、このようになった経緯について説明する。
- ・コロナが始まる前に、ライドシェアという言葉が世の中に出回ってきた。このライドシェアは、海外では、タクシー事業者ではなくても、いろんな個人の車を使って移動ができる手段として利用されている一方で、日本では、俗に言う白タク行為と呼ばれ、タクシー会社の業務を犯す可能性があり、タクシー業界は、絶対に反対であるという立ち位置を取っていた。
- ・そうした中、新たに始めたチョイソコが、その当時、本当に法律に適合しているかどうか分からなかったため、運輸局の方と話し合い、これが合法であるということを確認した。
- ・チョイソコひさえだに関しては、将来、乗合の許可を取得するために、まず初めに道路運送法第 21 条に基づく試験運行から開始したという経緯がある。

- ・コロナ禍でなかなか運行もうまくいかない中、試験運行の許可期限（1年）を迎える段階になったため、試験運行から本格的に運行していくための道路運送法第4条の乗合許可を取得するため、関係各所に相談をさせていただいた。
- ・もちろん、チョイソコひさえだの運行を継続するためには、松山市地域公共交通会議の議論を経て、承認いただく必要があるということのはっきり認識していた。
- ・しかし当時、なかなかこの会議に議題として取り上げていただくことも叶わないまま、実は継続不能という状況に陥りそうになってしまった。
- ・そうした中、令和3年11月1日から運用が可能になった、タクシー事業者の新たなサービス「相乗り制度」を見つけ、チョイソコひさえだの運行継続に活用できるのではないかと考えた。
- ・運輸局と協議の上、法律的な問題やシステム的な問題をクリアすることで「相乗り制度」を活用できることが分かり、地域公共交通会議をなかなか開催してもらえないということで、我々はその当時、チョイソコひさえだの運行を継続するために、「相乗り制度」を活用し、再スタートした。
- ・そして現在、3地区ともに「相乗り制度」を活用し運行している状況である。
- ・こうしたことから我々は、乗合に変えたいのではなく、元々乗合で運行したかったが、それが叶わないので、代替案として、「相乗り制度」を活用している。
- ・メリット、デメリットはいろいろあるが、「相乗り制度」と乗合の違いとして、相乗りの場合は、利用者に対し、どこからどこまで乗ったら運賃がいくらになるかを伝えなければならない。また、相乗りが発生する予約が入ると、初めに予約した利用者に、相乗りが発生すること、料金に変更になることを伝え、利用者が了解した上で運行しなければならない。現在は、そうした運用を行っているが、乗合になれば、その一連の手続きが不要になる。そのため、事務作業も含めて、非常に簡素化される。
- ・また、相乗りサービスは、実車運行料の積み重ねで料金が加算されていく仕組みであり、事務局側が予め想定していた予算を大幅にオーバーしてしまうという恐れがある。このことは運営上、大きなリスクを伴うため、一定のコントロールが必要である。一方で、乗合サービスであれば、そのようなことがなくなるという大きなメリットもある。
- ・そのような状況であるため、相乗りを乗合に変えたいというよりは、そもそも乗合で運行したかったものを元に戻したいという意味合いになる。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・いわゆるバスを運行するのと同じことなので、NPO法人でバス事業を申請して、運行されるのが普通ではないのでしょうか。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・バスを運行したらいいのではないかとことだが、チョイソコの最大の特徴は、ドアツードアという点である。バスの停留所や電車の駅まで行けない人、そういった方々の移動のニーズに応えている。私のイメージではバスは停留所まで行って乗り降りするというイメージをしている。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・路線バスではなく、NPO 法人としてチョイソコのような形でのバスを運営されてはどうか。交通弱者の方など、皆さんが出かけられるようになったことは非常に良いことなので、松山中に広げられたら良いと思う。
- ・皆様方は、同業のタクシー事業者なので、それぞれの考え方がありますが、大きなポイントとして、違う意味の交通網を作るとは非常に大事だと思うが、乗合に変更したい理由が、相乗り制度で事務的に不便だということであれば、お客様には大きな影響はないため、現行の運用方法においてよい良い方法を見つけてもらいたい。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・今は相乗りという中で、もちろん事務的な手続きもあるが、今実際どこのチョイソコもなかなか予約が取りにくいという問題が発生している。それは、あふれるほどの利用意欲と利用ニーズがあるからである。
- ・しかし、そのニーズすべてに対応してしまうと、この相乗りの仕組みでは、私たちが用意している予算の上限を超えてしまう計算の仕組みになっている。その予算を超えないようにするために、予約が取れる状況であっても、お断りせざるを得ない、ニーズに応えられないという、一番大きなデメリットが発生している。
- ・これを乗合にすると、そのことを気にせず予約数を最大化することができ、利用者にとっても最大のメリットになる。予約の取りにくさを少しでも解消でき、お出かけが進んでフレイル予防にも繋がるということが一番のメリットだと考えて、今回議題に上げさせてもらっている。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・チョイソコでいろんなところへ出かけることが増えたということは本当に良いことであるが、ただ単にしたいですということではなく、具体的なデータを示していただきたい。それで議論していく形にしないと、委員の皆さんも相乗りと乗合が何のことか分からない方もいると思うので、より詳しいデータをもとに、また次の協議に進んでいただきたい。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・今日私たちがお示したのは、お出かけをすることが、住民の方々にこれだけのメリットがあること、フレイル予防を中心に地域活性化につながるというところであったが、それ以外のデータというのは具体的にどういったデータをお示しすればよいか。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・乗合化することで、こんなに予約が取れるようになるなど、利用者の方にもメリットがある点について、分かりやすいものがあれば、委員の方も検討しやすいのではないかと思う。

チョイソコおのくめ 運行会社

- ・資料に関してはいろいろなデータを取っている。日本モビリティマネジメント会議でチョイソコひさえだ、おのくめ、いしいの取組に対して、賞をいただいている。
- ・これは、モビリティマネジメント会議と検索していただくと詳細が出ているので、それを見ていただくと具体的な内容が出ている。
- ・先ほどの補足で、なぜバスにしないのかという話だが、逆になぜタクシーではいけないのか。バス会社の方に、我々が行っていることが、バス会社として実際にできるかどうかを聞きたい。
- ・大きなバスが実際に家の前に来ることは物理的な問題もあるため、チョイソコはドアツードアのサービスを提供するタクシー事業の範囲の中でやれることだと思う。また、乗合としても、タクシー事業者が運行できるものだと考えている。
- ・今までのことをやっているから、今までのことをやってきたから、大変な方々が増えているし、これを松山市全体で何とかするための手段として我々はこの仕組みを導入したい。
- ・既存のことをやろうとしているのではなく、新たなことをやろうとしているので、電車、バス、バスとタクシーの間に入る第4の交通機関を作ろうと今必死に頑張っている、そこはご理解いただけたらと思う。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・ご指名がありましたので、伊予鉄バスの方から、本件に関してご意見、コメントをいただきたい。

伊予鉄バス株式会社 部長 中川 智之

- ・ドアツードアでバス会社がバスの運行としてできるかという話は、ご説明いただいた通り、車両の規格が家の前まで行くことは不可能なので、全てのバス会社ができ

ないかどうかは別として、我々としては難しい。

- 今回の議案に関してのバス会社の立場としての意見だが、チョイソコは我々がなかなか運行できないエリアを運行されており、理念についてもよく理解できるし、皆さん大変ご苦労されていることは十分想像できる。そういった意味で、いい形で広がっていくことには、私自身も賛成だが、バス会社の懸念事項としては、バスの営業にバッティングする部分を回避する仕組みについて、議論がまだ不十分だと考える。
- モータリゼーションが進む前の30年も40年も前のことと言えば、バス事業というのは非常に利益が出ていた時代だった。ただ、現状はマイカーでの移動が中心になり、バス事業そのものの存続が難しい。運転手の成り手がおらず、20年、30年の中で物価も上がり、利用者も伸び悩んでいる中で収入が減っている。そこを維持するためには、いわゆる運転手の条件は、以前に比べると落としていて、その中で何とかバランスを取ってきたという時代がある。ただ、バランスをとるところも限界がきて、運転手の条件がかなり悪くなったというところから、仕事の質と賃金が割に合わない結果なのだと思う。
- さらに言えば、労働力そのものが減ってきているので、そこが深刻になってきた。なかなか会社内部の調整で路線バスを維持することは、非常に難しいので、運転手の条件面の改善をするために、ここ最近、運賃の値上げをさせていただきながら何とか運転手を確保して維持していこうというのがバス事業者の現状である。
- それでも、市内を走っている路線バスはほとんど赤字の状況であり、行政から一定の補助金をいただきながら何とか維持している中、チョイソコの運行が、バス事業の営業そのものに影響がある可能性がないとは言い切れない。
- 公共交通網計画の中でも公共交通の軸の強化が謳われていると思うが、我々のように大きな車両を使って移動サービスを提供する立場からすれば、ここからこの移動はバスが担うという軸の部分を維持するために、区分けをすることが大事で、チョイソコが松山市内全域に広がったときに、どこの地区でどこまでを良しとするか、それがどれくらい影響を与えるのか、どれぐらいの影響であればそれを許容できるのかを整理したい。
- 乗継によって軸の部分が強化されるという面があるのは重々認識しているが、それだけではないので、その部分を松山市全体としてどういう区分でやるのかという議論をする必要がある。
- 今回ご提案されているように、駅の乗継で言えば、もっと利便性が上がるというのもよく分かる。ただ、それにより、軸の部分が弱ってしまうと、その地区だけに影響があるのではなく、沿線にある他の地区全てに影響が出てくる話であり、これは我々事業者やチョイソコを運営されるエリアの方だけの道理で話が進むことではないと思う。市全体で考えていかないといけない問題だと考える。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・今、電車やバスで普通のタクシーを使っている人と、使いたいのに使えていなかった人、そして、そもそも使えると思っていなかったという3段階があると思っており、使いたいのに使えていなかった、出かけたのに出かけられなかった、そもそも出かけて楽しもうとも思っていなかった人たちにアプローチするのがこのチョイソコという仕組みというところでは十分すみ分けができ、そこは正の部分としてご理解をいただいていると今日すごく実感した。
- ・そうしたことから、お客さんを取り合うみたいなことにはなり得ないと考えている。
- ・逆に、お出かけの意欲が促進されて、ちょっと頑張ってバスに乗ってみようかな、ちょっと頑張って駅まで行って電車に乗って伊予鉄高島屋へ行こうかなという人が増えるのは間違いない。実際にそういった声も事実として上がってきている。
- ・また、松山市全体の交通網というところで考えたときに議論が必要とおっしゃったが、これまでのこの公共交通会議の中でもチョイソコの話は出てきていて議論されているはずだと思って、今日は来ている。そのため、ある程度の議論はされた上で、今回こういう提案をさせていただいていることをご理解いただきたい。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・松山市全体でどう運んでいくのかという議論が、正直なところ私の感覚としては決まってないと思う。
- ・来年度に公共交通計画を策定する予定と聞いているが、チョイソコ、伊予鉄、タクシーのシステムとして、誰がどう担っていくのかという部分など、市の公共交通網ということではまだ議論されていないのが、意見が分かれている原因だと思う。
- ・そのあたりは、私も含めて早急に議論し、皆さんにご協力いただきながらお話を進めていかなくはいけないところだと思う。
- ・ご意見をもう少しいただきたい。伊予鉄バスとしてはエリアの拡大ということに関しては、時期尚早なのではないかというようなご意見か。

伊予鉄バス株式会社 部長 中川 智之

- ・正直言いますと、そうである。やはり全体的にどういう区域でいくかという議論もないまま、ここのエリアでこういうニーズがあるので拡大するというそれだけの部分では賛成ができないという立場である。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・伊予鉄バスとして乗合化ということに関してはいかがか。

伊予鉄バス株式会社 部長 中川 智之

- ・道路運送法第4条で乗合化するところは愛媛運輸支局にお伺いしたいが、今回、道路運送法第4条をの乗合許可を取得して、今後、区域を拡大したいという話が出たときは、改めて公共交通会議に諮った上で承認がされれば、拡大するという手続きの流れになるのか。

国土交通省 四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官

増田 輝彦（代理：徳永 暁子）

- ・そのようになる。

伊予鉄バス株式会社 部長 中川 智之

- ・区域の変更に関して議論をした上で認可されていくということであれば、私どもとしては、道路運送法第4条の乗合許可を取得することに対しては特に反対はない。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・ホームページでこの公共交通会議の過去のものを見させていただいて、今回倉内先生は初めてのご参加ということを知っているが、桐木先生はずっとこの会議に参加されていて、その中での議論を通して、今回の私たちの提案に関しては、どういうふうに感じているのか教えていただきたい。

松山東雲短期大学 教授 桐木 陽子

- ・これまでの報告事項として、いろいろご報告をいただきまして、今回利用した後の幸せ度や幸福度など、非常に効果があるということが示された。
- ・しかしながら、ここの場で具体的な提案が出て、それについて協議したかというところ、今日、タクシー協会や伊予鉄バスの方から懸念は示されたが、そのことについては、みんなで議論して結論を出してはないと思う。
- ・今回、初めて議案に上がったため、ご提案があったところを皆が納得するよう、継続して審議が必要だと思う。
- ・これは委員長のご判断だが、今日で決めるのか、乗合許可を取得することだけを合意とするのか、拡大だけは審議継続とするのか、委員長に確認したい。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・もう一つお聞きしたいが、拡大のことは、時期尚早だという話があった。そして、乗合許可については、タクシー協会から、反対する理由や、仮に許可する際の条件をお話しいただきたい。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・この会においてはこれまで、交通全体に対してのチョイソコの議論はしていない。
- ・今日は、チョイソコの結果報告を受け、地域の方が非常に喜んでいるということをお聞きできた。
- ・私は、次にどうしていったら良いかという形で継続審議をするのが良いと考える。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・今の議論が先に進まず、ずっと継続審議というわけにもいかないため、今後、エビデンスとして示してほしいことは何かあるか。

松山市タクシー協会 会長 友石 晃由

- ・具体的には、相乗りから乗合に移行した場合、金額や手間暇はどう変わるのか。
- ・そもそも、相乗りと乗合の違いの説明や、こうだからこうしたいということを具体的に示していただきたい。
- ・今日よく分かったのは、地域の方は非常に喜んでいるということ。
- ・その次のステップとして、乗合許可を取得したいということに関して提案をいただいたら検討ができると思う。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・チョイソコの方々、今のご意見に関してはいかがか。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・他の委員の皆さんの考えも知れたら、次の議論の準備がしやすいかと思う。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・何かご意見コメント等はないか？

松山東雲短期大学 教授 桐木 陽子

- ・チョイソコの方は、今日、範囲を拡大することは叶わなくても、乗合許可を取得することだけでも良いということか。

チョイソコおのくめ NPO 法人まるっとおのくめ

- ・そのとおりである。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・様々な意見があり、この会議で結論を出すことは難しいようなので、本件は継続審

議とさせていただければと思うがいかがか。

- ・乗合とエリアの拡大に関して、より正確な利用者の要望や利用実態などのデータとしてご準備いただき、改めて2月中旬、末あたりに再審議させていただくということにさせていただきたい。

松山市都市整備部 部長 石井 朋紀

- ・松山市として、できる限り早く結論が出るお手伝いをしたい。

委員長（愛媛大学 工学部 准教授 倉内 慎也）

- ・チョイソコが取組自体は全国にも広がりつつある素晴らしい取組だと思う。
- ・ただ、まだ状況が変わりつつあることや、松山市の交通システムとしての計画への位置付けがしっかりしていないということも、合意が取りにくい原因であると思う。
- ・一方で、待ったなしの状況でもあるため、同時並行的に少しでも前に進んでいけたらと思う。
- ・チョイソコの代表者の方、できるだけ早く同様の場を設けるので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

□ 報告事項【自動運転レベル4による路線バスの運行開始について】

伊予鉄バス(株)

--- 経緯・概要説明 ---

(質問・意見等なし)

以上